

## ▶調査の対象

留萌に住む55歳から64歳までの全市民をお願いします。  
(昭和20年1月1日～昭和29年12月31日までに生まれた方)

## ▶調査の内容

1、皆さんのご家庭にアンケート票（笹川メタボ、日常生活活動性、健康QOL（生活の質）を郵送します。アンケートにお答えいただき、同封の返信用封筒でご返送ください。

2、アンケートの結果、メタボの可能性が高い方や生活機能、健康状態に低下が目立つ方々を疾病リスクの気になる方として検査へ誘導します。（個別に連絡します）

■検査は血液検査だけです。

### 血液で調べる項目

基本項目（赤血球・ヘマトクリット値・中性脂肪・HDL・LDLコレステロール・GOT・GPT・γ-GTP・ヘモグロビン・空腹時血糖・HbA1c）に「隠れ糖尿病」「慢性腎臓病」「認知症」の予備軍を検出する上乗せ項目（血清インスリン・血清クレアチニン・血清ホモシステイン）をあわせて行います。

■検査料は全て市で負担します。

3、アンケート結果と検査結果は後日、ご本人にお知らせします。

## ▶問い合わせは

市・健康福祉部 コホートピア推進室（☎43・8121 るもい健康の駅 内）



調査に参加し「隠れ糖尿病」「慢性腎臓病」「認知症」の早期発見をしましょう。



皆さんにとって価値ある調査に

札幌医科大学医学部教授 小 海 康 夫  
(NPO法人るもいコホートピア理事長)

高齢化が進む現在、65歳から74歳は前期高齢者医療制度、75歳からは後期高齢者医療制度により、さまざまな健康増進、介護に関する事業が行われています。しかしながら、介護予防・疾病リスクは早期に対応することが重要で、高齢者医療制度を考える上で、55歳から64歳までの年齢層を対象とした調査は、大変重要な取り組みと言えます。また、高齢者医療制度は、国民健康保険を主体とする対応です。市、市の財政に直接負の影響を及ぼす点でも見逃せません。

55歳から64歳までの方は、現役世代を含む社会の中心的役割をなす世代で、それゆえ、忙しさもあって健康診断の受診が進んでいないことが予想されるため、本調査では、まず自宅で簡単に記載できるアンケートにお答えいただき、生活習慣病の0次スクリーニング（選別基準）と心と体の質に係る状況を調査し、一つの留萌モデルを確立しようと、市と協力、連携して国へ提案したものです。

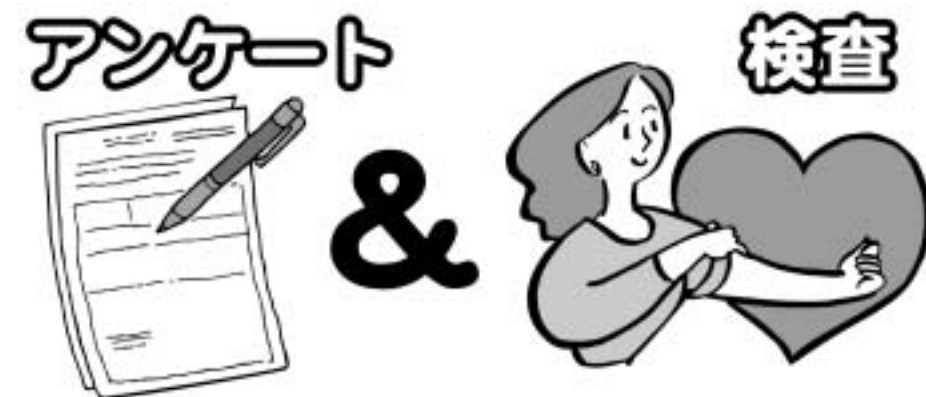
また、今回の調査事業のも一つの大きなポイントは、通常の検査項目では決して見つからない疾病予備軍を検出する上乗せ検査により、特に将来重篤化が気になる「隠れ糖尿病」「慢性腎臓病」「認知症」について、早期検出、早期予防への道を開きたいと思っています。

健康長寿のまちづくりを目指すために、健康状態を市民のひとりひとりが理解し、得られた情報を上手に自分の健康づくりに活かせるよう、皆さんにとって価値のある調査となれば幸いです。

# 留萌市介護・疾病リスク早期検出調査事業 55歳～64歳のみなさんへ

# アンケートを行います。

みなさんの参加、協力による、予防モデルの構築に向けて



留萌市では、健康増進などに関わる先駆的、試行的な調査研究事業に国（厚生労働省）が全額支援する「老人保健健康増進等事業」に応募し、このたび、市の提案した「介護・疾病リスク早期検出調査事業」が採択され、55歳から64歳までの留萌市民を対象に、大規模なアンケート調査と疾病リスクの早期検出を目指した独自検査を実施します。

対象になれる皆さんと、家族の健康づくりのため、ご理解とご協力をお願いします。

## ▼調査にあたって

健康な状態で年を老いて、いつまでも元気で生活し続けることが、何よりも価値のあることです。

高齢化社会を迎え、今までにはないタイプの生活習慣病が社会問題化する中、介護予防策に加え、健診で早期に疾病の兆候に気づき、重篤化する前に対処することがとても重要です。

しかし、留萌の傾向として、健診受診率が非常に低く、また、塩分摂取量が他の地域と比べて多いなど、糖尿病や慢性腎臓病の予備群が多い可能性が心配され、実態を把握し、早期に疾病リスクを回避できる方策を見つけることが課題です。

そこで、留萌市立病院の笹川院長が考案した、簡易な問診票だけでメタボリックシンドロームの危険性を予測する健診アンケートに、介護予防の実態や生活の質に係る調査項目を加えたアンケートにより、皆さんの健康や生活状態を総合的に調査、研究することとしました。

アンケート結果から特になる方々に今回の検査を受けていただき、アンケートの有効性の検証と、疾病リスクの早期発見のための方策を見つけてもらうというものです。